

## 知覧の庭園

「美しい日本の歴史的風土100選」(2007年3月1日)  
日本の道100選(優れた環境で美しい景観)一九八六年八月建設省選定  
建設省手づくり郷土賞(人と風土が育てた家並み)一九八六年七月受賞



知覧武家屋敷庭園有限責任事業組合

## 母ヶ岳の優美な姿を借景とし 260余年もの歳月を経て 歴史の息吹を今に伝える ここは薩摩の小京都

江戸時代、薩摩藩は領地を外城と呼ばれる113の地区に分け、地頭や領主の屋敷である御仮屋を中心に麓と呼ばれる武家集落を作り、鹿児島に武士団を集結させることなく分散して統治にあたらせました。知覧もその外城の一つです。

「知覧麓の武家屋敷群は、薩摩の麓の典型的な作例の一つで、折れ曲がった本馬場通りに沿って連なる石垣と生垣からなる景観にも優れ、我が国にとってその価値は高い。」として昭和56年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。また同時に地区内の7つの庭園が「優れた意匠で構成されており、またその手法は琉球庭園と相通じるものがあり、庭園文化の伝播を知る上でも貴重な存在である。」として国の名勝に指定されました。指定された7つの庭園の中で森氏庭園のみが池泉式で、ほかは全て枯山水式となっています。

### 武家屋敷庭園のご案内

年中無休  
開園時間  
午前9時から午後5時まで  
入園料  
(7庭園共通)

|           | 個人   | 団体(30人以上) |
|-----------|------|-----------|
| 大人(高校生以上) | 500円 | 400円      |
| 小人(小・中学生) | 300円 | 240円      |

### 知覧武家屋敷庭園有限責任事業組合

〒897-0302 鹿児島県南九州市知覧町郡13731番地1

TEL0993-58-7878  
FAX0993-58-7877

### 知覧麓の武家屋敷群

江戸時代の知覧は当初、島津家の分家である佐多氏が地頭として治めていました。佐多氏には優れた当主が多く出て、薩摩藩の中でも重要な役目を果たしました。その功績によって佐多氏十六代久遠の時代に、知覧の私領地化と島津姓の使用が許されました。

現在残る武家屋敷群は、佐多氏十六代島津久遠(1651~1719)の時代もしくは、佐多氏十八代島津久峯(1732~1772)の時代に造られたものではないかとされています。地区内は石垣で屋敷が区切られ、沖繩によく見られる石敢當(魔よけの石碑)や、屋敷入り口には屋敷内が見えないように屏風岩(沖繩のヒンブン)があります。知覧の港が江戸時代に琉球貿易の拠点であったことから、武家屋敷も琉球の影響を多く受けているようです。



#### 知覧特攻平和会館

知覧は、太平洋戦争の末期、陸軍の特攻基地のおかれた町です。この特攻平和会館は史実を後世に正しく伝え、世界の恒久平和を願い建立したものです。会館には旧陸軍四式戦闘機「疾風」等が展示されています。



#### 清流溝

知覧の町に流れる麓川(ふもとがわ)の疎水。その清流溝には水車がはわり、鯉が泳いでいます。

- 鹿児島空港  
九州自動車道  
指宿スカイライン  
知覧IC(車で75分)

- 鹿児島中央駅  
[JR・バス利用]  
JR指宿枕崎線平川駅下車(40分)  
知覧行きバス(30分)

- 指宿市  
宮ヶ浜交差点  
池田湖経由  
願娃IC経由(車で45分)





## 1 西郷恵一郎庭園

庭の南東部の隅に枯滝の石組みを設けて高い峯とし、この峯から低く高く刈り込まれたイヌマキは遠くの連山を表現している。また鶴亀の庭園ともいわれ、一変して高い石組みは鶴となり、亀は大海にそそぐ谷川の水辺に遊ぶがごとく配され、石とさつきの組み合わせは至妙である。



## 2 平山克己庭園

母ヶ岳の優雅な姿をとり入れた借景園である。北側の隅には石組みを設けて主峯となし、イヌマキの生垣は母ヶ岳の分脈をかたどっている。また、どこを切り取っても一つの庭園を形づくり、調和と表現にすぐれた庭園として絶賛されている。大海原には無人島が浮かび、遠くには緑の大陸が望まれ、想像とロマンの世界で楽しめる庭園である。



## 3 平山亮一庭園

石組みの一つもない大刈込み一式の庭園である。イヌマキによる延々たる遠山は、その中に三つの高い峯を見せ、前面にはサツキの大刈込みが築山のようで、母ヶ岳を庭園に取り入れて極端に簡素化された借景園として、名園の名をほしいままにしている。

# 悠久の時を越えて



## 入園料取扱所 (0993)

- ▲辻商店 tel 83-2258
- 森商店 tel 83-3934
- 真茅商店 tel 83-2159
- 森庭園 tel 83-3185
- 川口茶舗 tel 83-3911



## 4 佐多美舟庭園

寛延4年(1751)に造られたものといわれ、知覧庭園の中では最も、豪華で広い庭園である。枯滝を造り、築山の上部に石灯、下部の平地には、各所に巨岩による石組を設けている。門を入って右に折れて書院の前に出ると、本庭の主力の滝を中心とした石組みは、えんえんと流れ、訪れた人々に力強さと広さを感じさせる。



## 5 佐多民子庭園

巨石奇岩を積み重ねて深山幽谷の景をうつしだし、小舟に乗って石橋の下を潜って行くと、仙人が岩の上から手招きしているようだ。  
麓川の上流から運んだ庭石は、凝灰岩質のもので、巨岩のため石目にそって割り、牛馬で運びやすくしたものである。



## 6 佐多直忠庭園

門をくぐると切石の目隠しにつき当たる、屏風岩とも呼び、防衛を兼ねた造りで江戸時代中期の武家屋敷の風格を備えている。1741～1744年の作庭で、借景の母ヶ岳を望む庭の一隅に石で組まれた築山を設け、その中心部は3.5mの立石と枯滝の石組が絶妙な趣を呈し、一幅の水墨画をそのままに現した名園である。



## 7 森重堅庭園

森家は、亀甲城の西麓にあり、領主に重臣として仕えた家柄で、住居や土蔵は寛保初年(1741)に建てられたものである。曲線に富んだ池には、奇岩怪石を用いて近景の山や半島をあらわし、対岸には、洞窟を表現した穴石を用いて水の流動を象徴している。庭園入口の右側にある石は、庭園の要をなし、雲の上の遠山を現わしている。